

# 国土交通省 工事落札業者の皆様へ

ご存知ですか？

工事成績評定を確実に  
アップさせる秘訣！



**POINT** 国土交通省の工事成績評定が改正されています。

情報化施工を取り入れた工事の場合は、常に2点(0.8点)の加点が得られるようになりました。

考査項目	細別	
5. 創意工夫	I. 創意工夫	<p><b>【施工】</b></p> <p><input type="checkbox"/> 施工に伴う器具、工具、装置等に関する工夫又は設備据付後の試運転調整に関する工夫。</p>
		<p><input type="checkbox"/> ICT（情報通信技術）を活用した情報化施工を取り入れた工事。 ※本項目は2点の加点とする。</p> <p><input type="checkbox"/> 特殊な工法や材料を用いた工事。</p>

**POINT** 情報化施工は下記の計12工法が発表されています。

A. ブルドーザや油圧ショベル等のマシンガイダンス技術	B. グレーダやブルドーザ等のマシンコントロール技術(敷均し)	C. TS・GNSSを用いた出来形管理技術	D. ローラの軌跡管理による面的な品質管理技術(締固め)	E. ブルドーザ等による面的な品質管理技術(厚さ)	F. 振動ローラの加速度応答による面的な品質管理技術(強度)
 <p>GNSSとセンサ等の組み合わせで建機・作業装置の位置・標高を取得後、設計データとの差分を算出してオペレータに提供する技術</p>	 <p>TS(トータルステーション)やGNSS、もしくは回転レーザを用いて、建設機械の作業装置の位置・標高をリアルタイムに取得し、設計データとの差分に基づき制御データを生成し、作業装置を制御</p>	 <p>TSやGNSSで取得された位置および位置群を、出来形値(基準高、長さ、幅)等に抽出・変換するとともに、設計データとの差分を算出・提供</p>	 <p>GNSSやTSで建機の位置を取得し、平面上に設けたメッシュ毎に締り回数回数をカウントし、試験施工で確認した規定回数との差を、オペレータに提供する技術</p>	 <p>GNSSを用いて、建設機械の作業装置の位置・標高をリアルタイムに取得し、前層との差分に基づく面的な厚さや数量を提供する技術。</p>	 <p>GNSSで建機の位置を、加速度計で入力振動に対する加速度応答を取得し、加速度応答の特性変化を算出・オペへの提供。特性変化は、地盤係数との相関性が高いとされる。</p>
G. TSを用いた出来形管理技術(厚さ)	H. 非接触赤外線温度計を用いた面的な品質管理技術(温度)	I. 各種強度試験による盛土の品質管理技術(強度)	J. 無線付き温度計を用いたコンクリートの品質管理技術	K. 建設機械や生産設備の稼働記録を用いた精密施工管理技術	L. 3次元CADによる統合管理技術
 <p>TSによる舗装各層の仕上げ高さを測定し、面的な出来形形状を記録する技術</p>	 <p>舗装建機に搭載した非接触赤外線温度計により連続的に品質(舗装温度)を確認する技術。近年、GNSS付きローラ等の建機位置との組合せにより、面的な舗装温度の履歴管理が可能</p>	 <p>品質(強度)を容易に取得出来る原位置試験器により品質(強度)を確認する技術。試験位置が取得可能な走行装置等との組合せにより、面的な強度管理が可能</p>	 <p>品質(コンクリート内部温度)の経時変化を取得・記録し、データを受信したパソコン上で品質(積算温度)をクリートの型枠をスライドする際の判断(強度発現の確認)での利用を目的としている。</p>	 <p>現場設備の稼働状況や、掘削機・ダンブトラック状況(位置など)を監視し、最適な機械配置の判断支援を行う技術</p>	 <p>測量や締り機械の履歴を3次元CAD上で一元的に管理。また、3次元CAD上で、建機制御のための設計データ作成・確認を行う</p>

国土交通省 情報化施工推進戦略(2008.7.31)より抜粋

**POINT** その中で最も簡単でしかも低価格で実行できるのは？

上記12種類の中には難易度が非常に高く、非現実的な工法も含まれています。また改造済みの重機をレンタルする工法は工事毎に多額のコストが掛かります。情報化施工の実施にあたっては現場負担の軽減と利益確保の観点から最も難易度が低くなおかつトータルコストが最も低い工法を選択しましょう。



答え...

**C.TS・GNSSを用いた出来形管理技術**  
詳しくは弊社担当営業までお気軽にお問い合わせください。